読者のみなさんでつくる みんなの広場

「身近な出来事やイラスト」「テーマトーク」募集中！

洗車にはまる

自粛生活ではまったことがあります。洗車です。洗車してピカピカになった車を見ると気持ちも晴れ晴れします。不思議なことに自分までキレイになったように(笑)。YouTubeのレクチャー動画が洗車の先生です。

小松市 くろーむ

娘と孫

出産から2カ月、娘と孫がアパートに帰っていきました。新型コロナウイルスの感染防止に気を付けて過ごした日々は大変だったけど、かわいい孫の成長する姿にたくさんの幸せと元気をもらいました。買い物は全て宅配。生協さんにも大変お世話になりました。娘も宅配を始めることになり、子育てしながらなので時短メニューが助かると言っています。これからは親子二代で末永くよろしくお願いします。

金沢市 いの子

宝達志水町 ノン

このままずーっとね

孫のゆうちゃん(男の子)は、自分の使ったお茶碗やコップを洗います。お流しがビショビショになるので本当はちょっと困っているのですがとても誇らしげでまぁいいかと褒めてあげます。ずーっとこのままいい子でありますように。

白山市 戦いごっこのママ

能美市 ノブちゃん

雑草がうらめしい…

雨の少ない時期でも日射しにも負けず生い茂るたくましさ。新型コロナウイルスで毎日マスクをつける必要もなくていいなぁ…。

川北町 ますみ

YouTubeの姿に驚愕(きょうがく)

この春、大学生になって県外で一人暮らしを始めた孫に、遠隔で調理法を見てもらおうとYouTubeに挑戦しました。カツカレーを撮影し、映った動画を客観的に見てみると、なんと調理作業の手元が実母とそっくり！驚愕！でした。カレーの味もさることながらやはり母子はその年代、相当似るものだなぁと改めて思っています。あわせて料理好きだった母をしのんでいます。

白山市 タケやん

変わる

最近2～3カ月は家の中にいることが多くなり、考え方もプラス思考に変わった。足元を見て生きるということかな…。食べものも体に良いものを心がけるようになった。おまけにパズルを楽しむようになった。

小松市 ヨーコ

金沢市 あい(8歳)

テーマトーク 今月は カレーの思い出

恐怖のカレー

私が小学生だった頃、友だちの家に遊びに行き、お昼にカレーが出てきました。友だちの家ではカレーにソースをかけて食べる習慣があり私にもソースを渡してきました。私の家ではそんな習慣がなく、家にあるソースといえば中濃ソース。いつもの感覚でそれをかけたら、なんとウスターソース!!ドバドバッとソースがかかり、カレーがソースで真っ黒に…。ショックを受けた私の姿を見て友だちのお母さんが新しいカレーを作ってくれたんですが、その日以来カレーにソースが怖くて…苦い思い出です。

金沢市 ゆきママ

四角いお肉のカレーがいい！

子どもの頃、友だちの家でご馳走になったカレー。わが家のカレーと違って大きな角切り肉が入っていました。家へ帰って、経済的な理由も考えずに「薄っぺらなお肉じゃなくてゴロゴロした四角いのがいい！」と駄々をこねてしまいました。それ以来ずっとわが家のカレーは、四角ではないものの挽肉で作った球状の肉団子が入ったミートボールカレーになりました。

金沢市 ミッチェル

あの頃のカレー

子どもが小さかった頃は月2回のカレーライス、次の日にはカレーうどん。子どもたちは喜んで食べてくれ、一番の手抜き料理で大きな鍋いっぱいに作っていたなぁ…。今は主人と二人暮らし。いつからかなぁ、わが家のメニューから「カレー」が消えたのは。肉じゃがは作るけど…。今度は久しぶりにカレールーを入れてみよう。もちろん次の日はカレーうどんで!!

能美市 生協を愛してやまない主婦

母になって知る

母が作ってくれるカレーはいつも白っぽくてコテコテしていました。どうやら、じゃがいもをたっぷり入れていたようですが、トロ～ッとしたコマーシャルに出てくるようなカレーに憧れていた私は嫌で嫌で…。そして、今私の作るカレーは娘に野菜を食べさせたいあまり、にんじん&じゃがいもてんこもりのカレー。なるほど！大人になってから母の愛を知ったのでした。

加賀市 ようよう

コックの作るカレー

主人はコック。家では一切調理はしませんが初めてカレーを作ってくれたときのこと。〝塩(しお)っぱい〟。お店のカレーのルーはバターと小麦粉を煎ってスープでのばし香辛料を入れ味付けする。インスタントのルーは味が付いていることを知らなかったらしい。70歳を過ぎて知らなかったということを知りました。

加賀市 おたまま

次回のテーマトークのお題は「忘れられない味」

まど

機関紙モニターによるエッセイ

ターニングポイント

書き人 ポジティブ

人生に何度かあるターニングポイント。私には今のところ三度あった。

一度目は中学3年生の高校受験。部活で推薦も来ていたが、部活に疲れ遊びたかった私は、逃げるように高校へ進んだ。

二度目は高校2年生。友だちの話だけを信じ、大好きだった彼と一方的に別れてしまった。

三度目は大学受験。養護教諭になりたかったが、当時は専門学科がなく、職に就くまで時間がかかるのであきらめた。

部活を極めれば東京オリンピックに関わっていたかもしれない。彼と別れなければ社長夫人。養護教諭なら公務員の安定した生活。

だがあのとき、今の道を選んだから旦那と出逢い、4人もの子宝に恵まれた。結果、今の人生が幸せだと気付く。いまだに夢は見るが、あのときの選択は間違いではなかった。